

足羽川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場
第 1 回幹事会 議事要旨

平成 22 年 12 月 10 日(木) 16:00～17:45
福井河川国道事務所 3 階 第 2 会議室

【出席者】

福井県 近藤土木部長
福井市 滝花建設部長
坂井市 前田建設部長
池田町 村上産業振興課長
近畿地方整備局 尾澤河川部長

【議事内容】

1. 規約について
2. 検証に係る検討手順
3. 経緯及び概要

【構成員の主な発言】

○議事 1. ～ 3. に対する意見。

- ・これまでの足羽川ダムの経緯を踏まえ、推進に向けた結論を早期に出していただきたい。県は河川整備計画に基づいて、激特事業により足羽川の改修を終えており、残りはダムだけという思いである。この計画についても、九頭竜川の流域委員会で十二分に審議されていると思っており、その点を踏まえて欲しい。
- ・ダム検証のとりまとめ方に異論はないが、ただ単に長引くような検証はやめていただきたい。
- ・国、県、町が協定に基づいて進めてきた経緯もある。県民の安全・安心に対する信頼を揺るがせることのないよう進めてほしい。
- ・地元住民は非常に高齢化しており、生活への不安を非常に持っている。そういうことを払拭するためにも早く検証を進めてほしい。
- ・県、関係市町、関係住民の意見を十分に聞いていただきたい。代替案の検討にあたって、表に出すことによりいたずらに住民の方々に不安を抱かせることのないようにしていただきたい。
- ・これからのスケジュールを教えてほしい。事業評価監視委員会にかけるのはいつ頃を想定されているのか。

(事務局)

- ・資料－ 3 に検討手順を示しているが、今後の議論の内容により変更となる場合がある。また、検討の進捗に応じて幹事会等の時期が変わってくるので、事業評価監視委員会の時期は現時点ではいつとは申し上げられない。

- ・福井豪雨を経験して、下流の住民も冠水被害に不安を持っている。一日も早く住民の不安を取り除いていただきたい。
- ・26 方策で明らかに除外される対策もある。無駄な検討を省くことも検討してほしい。
- ・池田町としては（ダムによる）移転対象の住民を抱えている。移転対象の住民は、相当長い年月、生活の計画が成り立っていないのが現実。皆様も、自分の家庭に置き換えると十分理解して頂けると思う。結論を早く出していただくことを地元住民も切に願っているし、池田町としても、この足羽川ダム計画どおり推進していただくことが現段階において最善の策と考えている。

足羽川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場
第2回幹事会 議事要旨

平成23年8月25日(木) 10:00~12:00
福井河川国道事務所 3階 第2会議室

【出席者】

福井県 西山土木部長
福井市 岩本建設部長
坂井市 新谷建設部長
池田町 村上産業振興課長
近畿地方整備局 名波河川部長

【議事内容】

1. 足羽川ダム建設事業の点検（堆砂計画）
2. 治水対策案の検討（複数の治水対策案の立案）

【構成員の主な発言】

- 検証の進め方、スケジュールに対する意見
- ・ 前回幹事会から8ヶ月あまり経過している。時間がかかった理由は何か。また、検証をいつまでに終えようとされているのか。
(事務局)
 - ・ 再評価実施要領細目に則って、予断なく丁寧に進めている。九頭竜川は流域が大きく足羽川ダムの効果が九頭竜川、日野川にも及び複雑に関連していることから、入念及び丁寧に検討してきた。また、技術的な検討にあたっては、他ダムの検討内容を参考にしつつ検討を進めてきた部分もあり時間を要した。
 - ・ 検証を終える時期については、ご意見をいただきながら検討を進めることや、パブリックコメント等の手続きも挟むため、現時点で明確に終了時期を申し上げることは難しい。
- ・ 水源地域の住民は高齢化されている方も多く、検証が始まったタイミングが補償基準提示の直前ということもあり、大変大きな生活の不安を抱えている。平成16年災の激特事業は終了したとはいえ、洪水対策は急務となっている。スピード感を持って検証を進めていただきたい。
- ・ 平成19年に河川整備計画ができた時点で福井県、福井市、坂井市で池田町に出向き、下流の被害を治めるために上流の方に迷惑をかけることのお礼と要請を行っている。また、検証の検討内容には整備計画で検討した内容がかなり入っている。それらも踏まえると、検証を迅速に進めないと水没される方々にさらにご迷惑をかけることになる。

- ・今後も追加の幹事会があり得るのか。もっと延びることになると地元水没エリアの住民としては非常に宙ぶらりんの状態で、不安定な気持ちで生活を送らされることになる。地元住民としては非常に耐え難い状況。洪水調節だけを目的としたダムなので、もう少し早く進むのではないかと期待を持っている。能率的に進める方法はないのか。
- ・池田町や地元住民は国との協定、契約に基づいてダムを受け入れた。見直せるところは見直していただき、これ以上地元には不安感を増幅させるような対応のないよう、強くお願いする。
- ・九頭竜川は「越の三川」といい、九頭竜川、日野川、足羽川ともに既往（洪水）で破堤している。そういう事情も踏まえて、少しでも早く進めて頂きたい。
(事務局)
 - ・ご指摘も踏まえ、検討手順については再考させていただく。今後のスケジュールや目標について、持ち帰り検討させていただきたい。

○足羽川ダム事業の点検に対する意見

- ・点検の趣旨として、現在保有している技術情報等の範囲内で行うことや、コスト縮減や工期短縮などの期待的要素は含まないとしているが、ダムは既に保有している技術情報がかなり多くあるが、代替案はほぼ全部が期待的情報になるのではないかと懸念する。また、代替案はどうしても不確定要素が入ることとなり、ダムについても多かれ少なかれ不確定要素があるので、現時点でもっともらしい技術情報を採用してダムと代替案を公平に比較検討していただきたい。

(堆砂計画の点検に対する意見等は特になし)

○治水対策案の検討（複数の治水対策案の立案）に対する意見

- ・ダムの有効活用で操作ルールの見直しとはどのようなイメージか。
(事務局)
 - ・操作ルールの見直しとして操作ルールの適正化や事前放流等を考えている。他に、かさ上げ、利水容量の買い上げも考えているが、関係者との調整は行っていない。
- ・日野川の堤防かさ上げが「コスト面で明らかに有利」とあるが、堤防かさ上げはH.W.L.を上げるので一種の禁じ手であり、いろんな影響が生じるのではないかと懸念する。この地域は内水氾濫で非常に苦労している地域であるが、内水河川の影響を十分に斟酌（しんしゃく）してもコスト面で明らかに有利なのか。
(事務局)
 - ・日野川は河川改修が進み高水敷が狭いため、高水敷掘削ができないので引堤や堤防かさ上げになり、コスト面で堤防かさ上げが有利と考えたが、堤防かさ上げはH.W.L.を引き上げることになるため、もし氾濫した場合の危険性、リスクについては上がるということもあり、今後、評価軸検討の中で議論していきたい。

- ・内水問題で大変苦勞している。評価の段階では不確定要素がある中で期待的要素を含まないということも含めてきちんと評価をしていただきたい。
- ・治水の基本的手段から言えば、堤防かさ上げではなく掘削と引堤を組合せるべき。
- ・利水容量の買い上げ等の検討は、社会の趨勢として再生可能エネルギーとか自然エネルギーの重要性が叫ばれる中で、単に机上の論理だけで時間を費やすことのないよう、利水者に意見照会する等、時間をかけずに結論を見いだせるよう進めてほしい。
- ・放水路で江端川に抜く案について、ここは内水的に非常に課題の多い河川。このような所に放水路を持つてくる理由についてイメージがわからない。
- ・日野川は九頭竜川に比べて河床勾配が緩いため、水を抑制しないとシャープに水が出て行かない。日野川に合流する足羽川にもバックがかかってしまう。
(事務局)
 - ・足羽川ダムによる $600\text{m}^3/\text{s}$ カットの計画に対して、九頭竜川、日野川の既設ダムの有効活用により足羽川ダムの代替の可能性を検討することになるが、これだけでは効果量に届かないので、河川の改修と組み合わせて検討することになる。
- ・足羽川下流は河道（高水敷）掘削が、コスト面で明らかに有利とあるが、平成 16 年福井豪雨による激特事業中は市民に親しまれている河川の利用がままならない期間が続き、ようやく激特事業が完成し、福井市さんと一緒に足羽川の利活用を進めようしているところ。河川敷を切り下げることにより頻繁に冠水し高水敷の利活用ができなくなることは心情的につらいものがある。コストだけで割り切ってしまう評価をしないようにしてほしい。
- ・これまでに洪水に遭っている立場から、現実にあった低コストで安全なものを優先的に考えて、少しでも早く進めてほしい。極めて実現性の低い案は避けてほしい。
- ・流域対策の実現性を考えるときに、法律的な裏付けがあって進めるのであれば不確定要素もかなり排除できると思うが、現状そういうことがない中で、期待的要素を含まないような評価をお願いする。
(事務局)
 - ・各戸貯留の維持管理はそれぞれの方にゆだねる部分もあり、水田貯留についても各農家のご協力も必要。不確定要素が大きい方策については、そのことを念頭に置いて考えていく。

足羽川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場
第3回幹事会 議事要旨

平成23年10月31日(月)10:00~11:45
福井河川国道事務所 3階 第2会議室

【出席者】

福井県 西山土木部長
福井市 岩本建設部長
坂井市 新谷建設部長
池田町 村上産業振興課長
近畿地方整備局 名波河川部長

【議事内容】

1. 足羽川ダム検証に係る検討手順
2. 足羽川ダム建設事業の点検（総事業費、工期）
3. 治水対策案の検討（概略評価による治水対策案の抽出）
4. 意見募集について

【構成員の主な発言】

○検証の進め方、スケジュールに対する意見

- ・検討手順によると、検討を終えられる時期はいつ頃になるのか。
(事務局)

- ・近畿地方整備局として対応方針（案）の決定の目標時期を、1つの区切りとして今年度末を考えている。ただ、目標ありきではなく、きちっと議論した上で1つの目標として年度内を考えている。

- ・検証にかなりの時間を要していることでもあり、流域の安全を確保するという観点はもちろん、水没地域の住民の方々には色々な不安を抱えておられるので、そういった不安を一刻も早く払拭する観点からも、できるだけ速やかに検証の作業を進めていただきたい。

○足羽川ダム事業の点検に対する意見

- ・総事業費の点検の結果、982億円ということで22億円増となる説明だが、先々、さらに事業費が増えるのではないかと懸念を素直に抱いている。平成18年に基本協定を締結させていただいた折にも、事業費については計画額以上に増額しないようにということをお願いし、共通認識としてこれまでやってきた。期待的要素を含まないとか、現在の技術情報によって点検するという方針や考え方は理解する。一方で、ダム事業費等監理委員会でコスト縮減の議論をされ、また、協議会の場ではコスト縮減について色々とお願いをしてきた経過もある。これらの

コスト削減の議論が、今回の点検の中でどのように反映されているのか伺いたい。
(事務局)

- 大学の先生方等で構成されるダム事業費等監理委員会を開催しており、事業費の削減についてアイデアをいただいて調査等を進めている。例えば、ダム本体の設計の工夫で減らせるのではないかと、堤体コンクリートに導水トンネルから出てくる骨材を有効利用すればいいのではないかとというような意見をいただいている。ただ、それらに関して、現地調査、ボーリング等を実際に行った結果については、今回の測量費にプラス計上し反映しているが、その調査結果を設計に反映させて将来の現地工事の中で削減される費用については計上していない。もし、ダムを造るのであれば、事業費等監理委員会等でいただいた意見に基づきコストを削減し、常に対応していくことに最大限の努力をする。
- コスト削減に関しての技術的な検討については、しっかりと検討いただいて、可能な範囲でこの検証の中にも表現できるものがあれば表現していただきたい。それが期待的要素ということであれば、きちっとした調査結果が出た段階で、県には説明していただきたい。

○治水対策案の検討（概略評価による治水対策案の抽出）に対する意見

- 5つの案の抽出について、概略コストの出し方について伺いたい。
 - 1つは、土砂の処分費用をどのように見積もられたのか。
 - 2点目は、橋梁の架け替え、あるいは補強がいずれの案もかなり多く生じているが、どのようなコストを見込まれたのか。
 - 3点目は、内水河川がいくつか流入しているが、特に堤防かさ上げを含む案の内水河川への影響について、どのようにコストを見込まれたのか。

(事務局)

- 掘削土砂については、現時点において対策箇所周辺の民間の処理場で全量が処理できるものとして、運搬費用と処分費を計上している。現時点において各処理場の受け入れ可能量は限られているので、今回は全量処理できるものと仮定して費用を算出した。
- 橋梁については、現在の橋を有効に活用しつつ、橋梁の補強、かさ上げ、継ぎ足し、または架け替えに分けてコストを考えた。河床掘削をする場合は橋梁基礎の補強費用、引堤の場合は橋桁の継ぎ足しや施工中の仮橋費用、堤防かさ上げの場合は橋梁のジャッキアップ、橋脚、橋台のかさ上げや補強、施工中の仮橋費用を計上することを基本に検討した。
- 堤防のかさ上げによる内水河川への影響については、かさ上げにより H.W.L. が上がることから、内水排水のための樋門等や土木建築関係の付属施設については、外水圧が上がることに対応するため、必要となる改修費用は見込んでいる。また、本川水位上昇のためポンプアップの揚水高が高くなることについては、ポンプの運転時間の変更や調整池の容量拡大などさまざまな案が考えられ、ポンプ増強が必ずしも必要になるとは限らないので、今回の検討ではポンプ増強の費用は見込んでいない。

- ・県でも平成 16 年の豪雨以降、激特事業を色々やっている経験から、土砂の処分には大変苦勞してきた。そんなに簡単にはいかないと思っており、かなり期待的要素を含んでコストを試算されていると感じる。
- ・橋梁も同様に、架け替えにしろ継ぎ足しにしろ補強にしろ、なかなかそれだけでは終わらない。橋梁を架け替えるときには、前後の取り付けを含めて橋梁だけではおさまらないのが一般的であり、そういう意味でもこれもスリムなコストの推定ではないかと感じている。
- ・ダムに対しては期待的要素を含まないということだが、代替案については期待的要素を含んで考えているのではないかと感じている。
- ・いずれにしても、これから評価軸の議論をするときには、できるだけ定量的評価をしていただきたい。仮に、現在の技術的なデータに基づいてということで、定量的評価が難しいとしても、定性的な評価、コメントといったもので十分に反映していただきたい。一方で期待的要素は含まない、一方で期待的にコストを算定することがないようにお願いしたい。

(事務局)

- ・掘削土砂の処分費算定については、県が実施した足羽川の激特工事を参考にさせていただいている。ただ、今回の場合、今考えられる現状で処分場の状況を仮定し、現在の技術的情報の中で算定していることをご理解いただきたい。
- ・例えば、橋の付け替え、かさ上げ、継ぎ足しについては、取り付け道路の工事費用についても見込んでいる。また、沿道の物件補償の費用も見込んでいる。ただ、引堤が伴わない橋の付け替えやかさ上げについては、取り付け道路の沿道の物件、補償費等は計上していない。
- ・今現在の技術資料、技術的なもので定量的に積めるところについては積んである。
- ・今後、定性的なものについても、きちんと考慮していきたいと思っている。
- ・環境面についてお聞きしたい。
河道掘削、高水敷掘削を行うと、当然平水位または渇水期における水位低下が起ってくる。現在、江端川までは渇水期に塩害があると聞いている。治水というのは洪水調整だけでなく、高水敷を全部取ってしまうことの（塩害の）要素も考えていくべきかと思う。
- ・もう一点は、かさ上げをすると、下水道のポンプ場の関係は全部進めているので、そういう視点からも評価軸を見ていただくといいかと思う。

(事務局)

- ・ご指摘の環境面の評価については、今後、環境についての評価軸があるので、そちらで評価していきたい。

- ・代替案の考え方について、ダムによらないということになると計画高水流量が変わると思うが、計画高水流量が変わると、おそらく堤防の余裕高とか天端幅とか色々なところに影響するように思われる。その辺はどのような考え方をされているか。

(事務局)

- ・ダムの代替案の検討において、計画高水流量は例えば(天神橋地点で) 1,800m³/s から 2,400m³/s に変更することになるが、河川管理施設等構造令では流量によって例えば堤防の厚さとか余裕高が定められている。今回、代替案を考えるにあたっては、構造令に基づいて計画高水流量の変更に応じた高さ、堤防幅を確保する構造とするための対策は考慮している。
 - ・架け替え、かさ上げ等が必要となる橋については、流量変更対応分として余裕高についての対策も見込んでいる。
 - ・ただし、計画高水流量の変更だけによって構造令に適合しなくなったものについては、構造令 74 条における適用の特例により、改修の費用は見込んでいない。
- ・工事を行うところだけは構造令に適合させるが、代替案として工事をしないところについては、本来堤防の規格として備えるべき機能を有していないけれども、構造令により許容されている。言ってみれば、既存不適合のような状態になると理解するが、それでよろしいか。

(事務局)

- ・結果として構造令に適合しないことになる。

・そういう現実であることを、わかりやすく報告の中に盛り込んでいただければありがたい。

- ・輪中堤や河道掘削等が検討されている蔵作地点より上流についても、足羽川ダムを整備すると治水上の効果があると思われるが、どのように考えているのかお聞きしたい。

(事務局)

- ・蔵作より下流においては目標とする計画流量が定められているが、上流については現計画の足羽川ダムの効果により追加の河道改修が必要でなく、計画流量あるいは計画水位も定まっていない状況。今回の評価では、河道改修の断面も決められていないことから対象としなかった。
 - ・今後実施するパブリックコメント等の意見も踏まえて、対応していきたいと考えている。
- ・代替案においては、そのような効果が見込めないということもわかるようにしていただきたい。

○意見募集に対する意見

(特になし)